

令和7年度第3回大府市ひきこもり支援地域協議会 要点記録

日時	令和8年2月17日(火) 午後3時30分～4時45分
場所	大府市役所5階全員協議会室
出席者	<p>【委員】山田武司、外波祐二、上田美樹子、社本このみ、杉原直樹、鶴飼数正、大橋房代、山下麻衣</p> <p>【事務局】福祉部長 猪飼健祐、福祉まると相談室長 中本真、福祉まると相談室主査 山下智子、健康未来政策課長 齋藤裕士、健康増進課長 島田真希、学校教育課 指導主事 武田佳大、同 教育支援センター 蟹江修こども若者支援課長 久野倫太郎、学校教育課指導主事 武田佳大</p>
欠席者	<p>【委員】來多泰明、竹内美喜、中川寛子、大久保みどり</p> <p>【事務局】地域福祉課長 山本真嗣、同スクールソーシャルワーカー 山田誠</p>
傍聴者	0名

敬称略

1 あいさつ(会長)

義務教育終了から引継における中間報告等、就労への抵抗感がある壮年期の方への支援と8050世帯の対応というテーマである。これまで大府市の取組や今後の方向性・在り方について報告し、協議していきたい。

本日は、今年度最後の協議会である。来年度もまた、着実に一歩進んでいくことができるように、本日も忌憚のない意見をお願いしたい。

2 議題(会長が議長として進行)

(1) 義務教育終了からの引継ぎにおける中間報告

—資料に基づき事務局(学校教育課指導主事)から説明—

—質疑応答—

【会長】確認。情報シートは、市内全校同じもので、小学校から中学校に上がっていくというものか。更に中学校からその先の機関にシートが繋がっていくということか。

【事務局】その通りである。

【委員】高校では入学時に新入生の担任が情報を共有する。支援情報シートのような詳細な内容はなく2,3行のものである。欠席日数が多いことは分かっても理由が分からないこともある。また、入学当初は頑張って登校するが、途端に途切れることがあるので高校にもこのようなシートがもらえないかなと思う。

【事務局】この支援情報シートは、義務教育を卒業した後に切れ目があるのは、本人にとって大きなデメリットになるという点からスタートしたもの。福祉につなぐシートである。次の機関に引き継ぐかどうかは家族や本人の意向確認しながら対応する。同意を得られればシートそのものではなく福祉のコメントを添えたものを提供する。これまで通り、高校と中学校で連絡を取り合うという流れになる。

【委員】引継の同意があれば共有の可能性があるので、支援の幅が広がると思った。

【会長】同意は非常に難しいこと。同意がない場合は、福祉まると相談室に情報は届

かないので、教育委員会を通して、どこまで情報を共有できるかを含めうまく連携してもらいたい。

【委員】支援シートを見た時に、対象者を理解しにくいので、長所や短所や趣味等があると良いのではないかと思った。

【委員】大府東高校は協議会参加しているので情報シートのことを把握したと思うが、他の学校はどのように把握するのだろうか。市内高校以外のところへの周知するのか。すくすくに記載している内容は支援に有意義だと思うので、保護者の手元に戻った冊子を、何かあった時に高校等進学先に渡すことを事前に保護者に伝えておくが良いのではないか。

成人し、パニック障害になった人が、卒業後何年も経ってから当時対応した私を思い出して連絡をくれたというエピソードがある。この会議に出ているメンバーは、キーパーソンになり得る人だと思っている。委員の皆さんがしていることは大事なことだというメッセージを伝えたい。

【委員】中学校から「気軽に相談してください」と言ってもらったが、卒業後にどこに相談して良いのか迷った経験がある。卒業後に相談できる機関を一覧表にして渡すことを提案する。

【事務局】本市では「ひきこもり支援機関ガイド」を作成しているが、十分なPRにはまだ課題がある。必要な方に必要な時に届くよう工夫する。

【事務局】支援情報シートについて補足する。このシートは、引継ぎを受けて満足するものではなく、活用して次の支援先とヒアリングを行い、ライフステージに合わせて必要な支援をするものである。まだ完璧ではないかもしれないが、一昔前に比べれば、随分、制度としては整ったと思っている。

## (2) 就労への抵抗感がある壮年期の方への支援と8050問題への対応

—資料に基づき事務局（福祉まると相談室）から説明—

—質疑応答—

【委員】義務教育と卒業後のかけ橋、壮年期の方について体系的他分野をまとめる形で取り組んでいると思った。

障がいの分野に携わる者として、早期介入の部分で、特に精神疾患の部分だと「病気が治ったからひきこもりから脱却する」というわけではないと感じる。障がいも同じである。障がいがあるからひきこもるわけではないが、しかし、障がい起因している場合も確かにある。早期に何か改善できれば、回復の可能性が広がる。これは病気や障がいの分野以外でも共通する。

障がいや病気が回復することで、ひきこもりから一歩出られることもあるので、色々な機関が手を携えながら支援ができれば、期待できる（いろんな変化がある）と思った。

【会長】まず病気や障がいがある人との関係性をうまくつくる必要がある。安心してつながれる関係性を作っていく必要があると思う。

【委員】昔不登校だった時のきっかけや誰も信用できなくなった当時の話を、しばらく経ってから話す方がとても多い。こどもの頃のこどもの様子を周りの方たちが丁寧に見るということが次につながる。

相談をするきっかけとして、当時保健室登校で相談していた経験があり、保健所に相談に来ようと思ったと聞いた。誰かに相談できるっていう強みを持っているという視点も感じた。

どんなきっかけで介入のタイミングが来るか分からないので、事務局説明にあったように、細く長くつながり続けるということや、丁寧に関わっていくことが大事だと思う。保健所だけで解決できないことは支援のつなぎとして地域に相談したい。

【会長】成功例を増やしていくためにも、今後ますます様々な工夫も必要。市役所だけではなく、我々の機関でも携わってけると良いと思う。

【委員】5年10年経ち、若者だった方も壮年期になる。家族がいなくなったり、場合によっては、本人が病気になったりする。状況が変わると今まで就労に向けて進めていた相談がいったん止まる。そのようになると、今まで家族に支えられてきた本人は自分一人になってしまい孤独になる。

孤独についてできることが限られているので、各機関が繋がっていくことの重要性を感じる。話を丁寧に聞きながら、今の状態を確認し、つながり続けていくことが、とても大事だと思った。

【委員】知多市での居場所では、食を通じたものになっている。家族同士のつながりの中で話をする機会も大事だと思う。大府市の家族交流会の回数ももう少しあると良い。

### 3 情報交換

【委員】我々の団体で制服循環プロジェクト制服の寄付を募集している。卒業し、制服を着用しなくなった人がいたら、協力をお願いしたい。制服を必要とする家庭は多いので、在籍の中学校に寄付するのも良い。我々への寄付の際には、思い出の詰まった大切な制服を寄付していただくので図書カード1,000円と交換することにした。協力いただけるようなら、情報を共有してもらえると嬉しい。

【事務局】事務局職員で受け止めて、職員のロコミ等で協力させていただく。

### 4 その他

【事務局】令和8年度のひきこもり支援地域協議会から年2回の開催となる。第1回の協議会は令和8年6月頃を予定している。日程が決まり次第連絡させていただく。

委員の交代について、本協議会は2年任期で委員を委嘱しており、任期終了は令和9年の3月末となる。4月の人事異動などにより、担当者が代わる場合には、次の委員への依頼と伝達をお願いしたい。年度が替わったら改めて委員を確認させていただく。女性登用率の関係上、委員選出には配慮と協力をお願いしたい。

### 5 閉会挨拶（福祉部長）

長時間に渡り、熱心に協議いただき感謝申し上げます。ひきこもりの状態は孤独孤立の一つの事象であると思う。家族を含めて「時待ち人」の方々に対して関係機関がチームとして関わるのが大事だと思う。

効果がすぐに出るものばかりではないが、確実に効果は上がってくるので、継続した支

援が必要だと感じている。これからも、委員の皆様と一緒に、本人へのつながりを続けられるよう、この協議会での協議を生かしていきたいと思う。これからも協力をよろしくお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。